

# 令和4年度 栃木市教育研究所 研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	学びに向かう学級づくり		部 会
2 研究所員 事務所員 ◆：代表者	研究所員 ◆稲村 政憲(栃木東中)  ・堀江 英里(東陽中)	・永井 良和(大平中央小)  ・大竹 瞳美(大平東小)	事務所員 ・小林 伸彦  ・佐藤 奈央子



## 3 研究テーマ

安心感のある学級づくりを目指した取組

## 4 研究の取組

### (1) 研究内容

安心感のある学級づくりをすることが、学びに向かう学級をつくることに繋がると考え、テーマを「安心感のある学級づくりを目指した取組」にした。  
 その際に、「学びにおける安心感とは何か」を話し合った。「学びにおける安心感」を児童生徒が得るためには、学級における所属感や自己肯定感を児童生徒がもてること、学級が受容的な環境であることなどが必要であると考えられる。そこで、それらをもとに各自が考えた取組を実践し、取組の共有、授業研究を行っていく。

### (2) 研究計画

月 日	研修内容	月 日	研修内容
5月6日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	1月23日	研究授業・授業研究会 (栃木東中 稲村先生 1年 学級活動)
6月17日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	2月10日	本年度のまとめ・来年度の構想
10月3日	実践報告	2月24日	1年次報告提出
11月3日	研究授業・授業研究会 (大平中央小 永井先生 4年 学級活動)		

## 5 研究の成果と課題

### 【成果】

- ・児童生徒が安心感を感じる学級づくりが学びに向かう学級をつくることになるという考えに基づいた取組の成果が確認できた。
- ・当初考えていた「自己肯定感」「受容的環境」などに加えて、「リーダー育成」「自立」「小中9年間のつながり」というキーワードが見えてきた。

### 【課題】

- ・「安心感」というキーワードは広義であったので、より具体的な考え方や手法を追求したい。
- ・様々な校種や学級において、「安心感のある学級づくり」をするために、共通した考え方や手法（幅広く、多くの教員が使えるもの）を共有する必要性を感じた。

## 6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

「先生方はどのような考え方や手法で学級目標づくりを行っているのか」、「先生方はどのような考え方や手法で黄金の三日間（学級開きなどの年度はじめの三日間）を指導しているのか」に焦点を当てて、多くの先生方の考え方や手法をまとめ、分析していきたい。